

聖書箇所：イザヤ書9章1～7節

説教題：ひとりの男の子が与えられる

## 1 イザヤの時代

アドベンドにちなんで、先週は創世記からヤコブが十二人の息子たちにやがて来られる救い主のことを語ったところを見ました。今日はイザヤ書を開き、同じように信仰の大先輩たちがどのようにして救い主を待ち望んでいたのかを見ていきます。

イザヤは、紀元前およそ740年頃に預言者としての活動を始めたと考えられています。その頃のイスラエルはすでに北王国イスラエルと南王国ユダとに分裂しておりました。イザヤはユダ王国の人です。一方の北王国は、大きな力を持ったアッシリヤ帝国によって722年に攻められ滅ぼされてしまいます。人々は補囚として捕らえ、遠い地に強制移住させられてしまいました。南王国ユダの人々は、その一部始終を目撃しました。決して他人事ではありません。自分たちも同じ運命をたどるかもしれない。そのような不安と緊張の中で人々は生きていかなければなりません。出口が見つからず、次第に息苦しくなっていくような時代です。そんなときだれでも願う事は、希望です。

そんな時代の中でイザヤはこのように語りました。2節を読みます。「やみの中を歩んでいた民は、大きな光を見た。死の陰の地に住んでいた者たちの上に、光が照った。」

## 2 信じてよいのか

あえて説明するまでもありません。あなたがたは救われる、希望があるというメッセー

ジです。これを聞いて人々はひとまず安心はしたでしょう。しかし問題は、その救いかいつやって来るのかです。大きな光はいつ照り輝くのか。いつ自分たちは喜び楽しむ者となるのか。外国の軍隊が攻め込んでくる前なのか、それとも後なのか。それが重大な問題になります。しかし、イザヤは、救い主がいつ来るのかは語りません。

どうでしょうか。いつのことかわからない。そんなあやふやに感じられるようなメッセージを信じることができるでしょうか。明日にでも軍隊が攻めて来るかもしれない、そんな緊張の中に放り込まれています。そんななかで、どちらを信じるのかと問われたなら、近いうちに救いがあると語る宗教を信じたくなるのが普通でしょう。戦争は起きない。平和が訪れる。だから安心しなさい。当時、おそらくそのように教える宗教があちこちに現れただろうと想像されます。

実際どうだったのでしょうか。南王国は586年にバビロニアに攻め込まれ、陥落します。多くの人々が戦いで殺され、家族が生き別れになり、補囚となって外国に強制移住させられました。戦争は起きてしまいました。平和は奪われました。イザヤが語った救い主は現れませんでした。イザヤは嘘を語ったのでしょうか。もしそうなら聖書を信じる事などばかげた事になります。

もちろんそんなはずはありません。イザヤの時代からおおよそ七百年の後に、イエス・キリストと呼ばれる方が、イザヤの預言どおり

に私たちのところに来られました。

### 3 二つの証拠

#### (1) ゼブルンの地とナフタリの地 (マタイ 4章13節)

いくつかの根拠があります。きょうはそのなかから二つのことを見ていきます。一つ目は、1節に出て来る「ゼブルンの地とナフタリの地」という地名のこと。二つ目は、7節のみことばです。

まず「ゼブルンの地とナフタリの地」から。私たちにはあまり聞き慣れていない地名です。ので、どこのことやらと思います。マタイの福音書4章13節以降に説明がありますのでそこを読むと理解しやすいでしょう。

「(イエスは) ナザレを去って、カペナウムに来て住まわれた。ゼブルンとナフタリとの境にある、湖のほとりの町である。これは預言者イザヤを通して言われた事が、成就するためであった。すなわち、「ゼブルンの地とナフタリの地、湖に向かう道、ヨルダンの向こう岸、異邦人のガリラヤ。暗闇の中にすわっていた民は偉大な光を見、死の地と死の陰に座っていた人々に、光が上った。」

マタイは、イエスと呼ばれる救い主はイザヤが預言したとおりに、ゼブルンとナフタリに来られたと証言しました。

#### (2) 御使いガブリエルが告げたこと

もう一つの証拠を見ることにします。ルカの福音書1章32節。天使ガブリエルがマリヤの所に現れて高告げた箇所です。「ご覧なさい。あなたはみごもって、男の子を産みます。名をイエスとつけなさい。その子はすぐれた者となり、いと高き方の子と呼ばれます。また、神である主は彼にその父ダビデの王位

をお与えになります。彼はとこしえにヤコブの家を治め、その国は終わることがありません。」

ガブリエルは、イザヤ書9章7節のみことばを思い出させながら、マリヤがいま産もうとしているのは、神である方が人となって来られる救い主なのだと言いました。

### 4 救い主は間に合わなかった?

しかしどんなに数多くの証拠を挙げても、最後まで残る疑問がひとつあります。イザヤはやがて救い主が来られると語ったけれど、でも南王国は結局攻め滅ぼされてしまいました。救い主が来るから信じて待ちなさいと言われたのに、救い主が来るのを見ないまま、人々は殺されてしまいました。このことをどう考えたらよいのでしょうか。

私たちにとっても切実な問題です。「私は死にそうです。わたしの愛する人が死にかけています。主よ、助けてください。」切羽詰まって祈られるときがあります。しかし、何も起きません。祈りのかいもなく、目の前で愛する人が亡くなります。主よ、あなたはどこにおられるのですか。何もされないのですか。あなたは聖徒が苦しんでいるのをご覧になりながら、何とも思わないのか。助けようとするのか。そういう疑問がわくことがあります。詩篇を見ても、そんな叫びがあふれています。

先週大きな事故が起きました。トンネルの天井が崩れてきてたまたまたそこを通った人が巻き込まれ、多くの方が亡くなりました。残された家族はこのことをどう納得したらいいのでしょうか。あまりにも理不尽な話です。そんな話が世界中にあふれています。どこに正義があるのか。どこに神の救いがあ

るのか。強い疑問を感じます。

救い主が来られるのを待ち望みなさいと言われ、信じたのに、結局殺されてしまった。救いを信じていたのに、治療の甲斐もなく病気で亡くなっていく。救い主は間に合わなかった。彼らは無駄な死に方をしたのでしょうか。愚かな人たちだという事なのでしょうか。

## 5 万軍の主の熱心がこれを成し遂げる

(1) たとえ間に合わないように見えても

決してそんなはずはありません。神が私たちを救って下さるといことで、遅れてしまったとか、間に合わなかったという事は絶対にありません。私たちの目にはもう手遅れに見えても、主の目には十分に間に合っている。私たちの頭ではもう取り返しがつかないと思えても、主の手にあっては、すべてが完全に取り返しが可能なのです。

本当にそうなのでしょうか。だって、死んだらおしまいではないですか。人のいのちの事だけではありません。自分の歩んできた人生をふり返れば、取り返しのできない失敗の繰り返しばかりです。あのときこうしていれば。あのときもっと早く気がついていれば。あのときこのように判断していれば。あのとき、自分の口から出たことばが相手を大きく傷つけてしまった。そんなことを言うべきではなかった。それ以来気まずい関係になり、憎み合うようにまでなりました。でもどうすることもできない。取り返しができない。そういうことが山ほどある。それはどうなるのですか。救い主が来られる。それを聞いて、前を向けば希望があり、光があるとは思える。でもいっぽう後ろには、取り返しのつかない悲しい事がそのまま手つかずのままある。そ

んなもやもやとしたものを抱えていたのではないのでしょうか。

救いというと、永遠のいのちにばかり目がいきます。もちろんそれは大切な事です。しかし、救いの意味はもっと広いことを知っていただきたい。私たちの後ろにある悲しみを、喜びに変えてくださると約束されます。取り返してくださると約束されます。

(2) 救い主は死なれ、よみがえられた

そんな事が本当にできるのでしょうか。イエスの生涯は、人間的な言い方をすれば、取り返しのつかない歩みであったと言えます。案な事を言わなければ、こんな事をしなければ、殺される事はなかったのに。そのような生涯です。しかし主は十字架で死なれました。取り返しのつかないところに追込まれました。父なる神は、この方をお見捨てになりました。救いは間に合わなかったかのよう見えました。

しかしこの方は三日目に墓からよみがえられました。それで私たちはわかりました。神には手遅れという事が一つもない。神にとってすべてが十分に間に合う。死は、神の前に打ち負かされました。であるなら、私たちのいのちの事はもちろん、私たちの後ろにある、取り返しがつかないと悲しんでいたさまざまな思い、それさえもこの方は取り戻してくださる。私たちは神の御前で喜ぶ事ができると言われます。

そのことを 4 節でこう表現しています。「あなたが彼の重荷のくびきと、肩のむち、彼をしいたげる者の杖を、ミデヤンの日になされたように粉々に砕かれたからだ。」

「ミデヤンの日」のことは、士師記に出て来ます。ギデオンが主に召し出され、イスラ

エルを苦しめていたミデヤン人を追い払っていく出来事を言っています。

マリヤを通してひとりの男の子が私たちに与えられました。この方は神ですから、あらゆる権力と力を持っておられました。しかし、十字架におつきになるとき、すべての力をお捨てになり、ご自分を死にわたされました。しかし、万軍の主の熱心が主をよみがえらせます。

どうしてそんな手の込んだ事をするのでしょうか。私たちが気落ちする事のないように、私たちに信じる力を与えるためにです。そのために、主ご自身がいのちをお捨てになります。本当の希望、絶対に破られる事のない約束が十字架にあることを知ってもらいたい。その熱心が主を十字架に向かわせました。

イザヤが預言したひとりの男の子。私たちに与えられたひとりの男の子は、そのような歩みを歩んで行かれます。